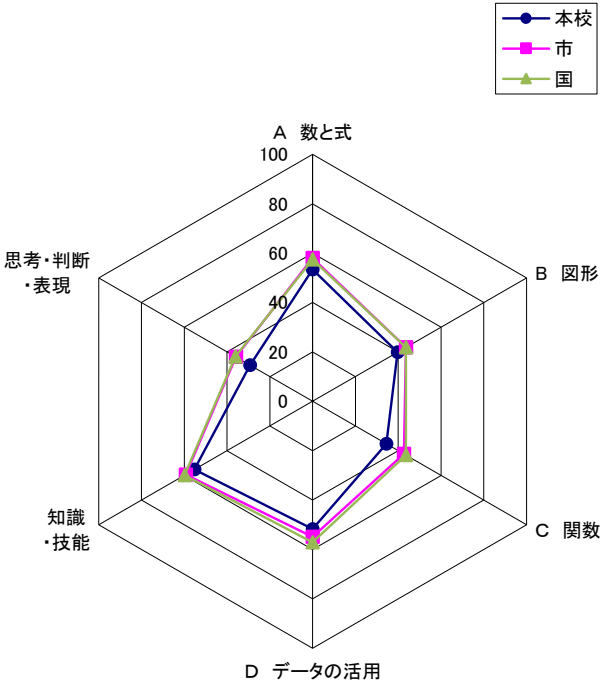


宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	53.4	58.0	57.4
	B 図形	39.7	43.6	43.6
	C 関数	34.4	42.7	43.6
	D データの活用	51.7	54.9	57.1
観点	知識・技能	55.3	59.3	59.9
	思考・判断・表現	29.3	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率が、市・国の平均正答率を下回っている。 ○連立二元一次方程式を解く問題では、70%以上の正答率である。 ●結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題では、県・国平均値と比べて、30%で低い。	・既習事項や計算方法が成り立つ理由を押さえながら、多様な計算方法を比較検討することを通して、より効率的に計算できるように支援する。 ・定着度に応じた計算練習を、タブレットを使用するなど場面を工夫して取り入れる。 ・数学的な事象を説明する場面では、文字式を使用することによって一般的に説明できることのよさをおさえる。説明の仕方をパターン化して示していく。
B 図形	平均正答率が、市・国の平均を3.9ポイント下回っている。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を書く問題では、全国平均を上回っている。 ●角の大きさがいつでも同じ値になる理由を説明する場面で、無回答率が40.7%で説明することに課題が見られる。	・ある予想がいつでも成り立つかどうかを示す問題では、なぜ成り立つかなどの理由を考えさせる場面を設定し、話し合い活動などを通して理解を深められるように支援する。 ・証明問題では、書くことに対して苦手意識が強いいため、論証の筋道を丁寧に指導する。また、初期段階では、パターンの練習を繰り返し行い、論証の苦手意識をなくすよう努める。
C 関数	平均正答率が、全国平均を9.2ポイント下回っており、他の領域と比べて差が大きい。 ●与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ったり、問題解決方法を数学的に説明したりするなど、表現することに課題が見られる。	・関数の既習事項と関連させ、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・苦手な生徒には、表やグラフを書いたりする具体的な活動を繰り返し行い、2つの数量の関係と視覚化できることのよさをおさえる。 ・日常生活の中で興味関心が高まるような身近な問題から、関数の値の変化や特徴をとらえ、自分の考えを文章で表したり発表したりする場面を設定する。
D データの活用	平均正答率が、市・国の平均正答率を下回っている。 ○多数回の試行によって得られる確率を求める問題では、82.4%の正答率である。 ●箱ひげ図やデータの散らばりから分布を捉え、正しく表現されている問題を選ぶ場面で、データの特徴を捉えるための知識・技能の定着に課題が見られる。	・図や具体的なデータの例を用いてわかりやすくまとめ、基本的なデータに関する知識を身に付けられるよう支援する。 ・興味関心が高まるような身近な問題から、データを分析する活動を通して、代表値をもとに比較する際の観点を明確にして言葉で表現できるよう関連を図る。